

いうことではなくて、毎日の自分の行動

の基礎に、自由とか平等というようなこ

とを基本的な原理としてもつという精神

的態度なんだ」と言うのと、しばし何かを

思い出すような顔をして、彼女のいわく

「あの、『ジャリソチエ』っていう漫

画に出てくる、ケンカとバクチが大好き

で毎日遊んで暮しているテツツというす

ごく愉快な男のセリフを覚えてあげる。

『おまえそういう本格的なこと考えとっ

たら不幸になるぞ』って言うの」。(笑)

「でも、身体に気をつけて頑張ってくだ

さい」

最後のひとりでやや救われた感じがし

て、彼女と別れた私は、李白を気取り、

ひとり、酒を飲みに行くことにした。

《参考文献》

坂本義和『核時代の国際政治』（昭和

四十二年、岩波書店）

森有正『遙かなノートル・ダム』（昭

和四十二年、筑摩書房）

森有正『木々は光を浴びて』（昭和四

十七年、筑摩書房）

森有正『遠ざかるノートル・ダム』

（昭和五十一年、筑摩書房）

高田博厚、森有正『ルオー』（昭和五

十一年、筑摩書房）

安藤英治他訳『ウェーバー 宗教社会

論集』（昭和四十三年、河出書房）

はるき悦巳『ジャリソチエ』 4

（昭和五十五年、双葉社）

〈総務局渉外部主査〉

② 開発途上国にみた国際的都市ナイロビ

牧田修俊

横浜港に外国航路の豪華客船が停泊す

る時や、国際的な行事が催される時など

の横浜は、国際的貿易港としての色彩が

一層濃くなる。こうした時、はたして横

浜はどのような国際都市なのか、考えさ

せられることがある。

私は、一九七八年九月から七カ月間に

わたり、わが国の無償援助協力で実施さ

れている水道建設のために、ケニア共和

国水資源開発省の職員として派遣され、

首都ナイロビに滞在していたものである

が、横浜の国際的な都市としての位置づ

けの判断の参考として、開発途上国にみ

た首都ナイロビの国際的様子について紹

介したい。

御承知のとおり、ケニアは、国土の大

部分がサバンナに覆われている。国民の

多くは、厳しい自然条件のもとで、いま

だ昔ながらのウシやヤギを追いながらの

遊牧生活と、首都ナイロビに見られるよ

うな、新しい息吹きとともに、急速にヨ

ロッパ文化の影響を受け、近代的ビル

が立ち並んだ都市の生活が奇妙に同居し

ている国である。

こうした中で、英領から独立後一六年

たった今日、内在するナシヨナリゼイシ

ヨンの意識のもとに、自力で建国の道を

歩みつつ、農業国として積極的に農業生

産の振興に力を入れている国である。

しかし、資源の乏しいことや、国家財

政に恵まれない状況のもとに、都心部を

一歩離れた地域では、文化的な生活から

取り残されている部分が多い。

こうした状況におかれているケニア

は、開発途上国として、農業、医療、教

育、民生など経済社会の発展、福祉の向

上を計るべきあらゆる分野にわたり、ヨ

ロッパを始めとする先進諸国から多く

の財政的援助や、人的協力を受けている

国である。

- 一——政府機関に働く多くの外国人
- 二——首都ナイロビの様子
- 三——おわりに

かかる状況から、首都ナイロビには、政府機関や外資系企業に携わる外国人が多く居住しており、東アフリカ諸国の表玄関といわれていることからわかるように、諸外国からの訪問者が多い都市で、首都ナイロビは横浜以上に国際的な色彩が目につく都市である。

一 政府機関に働く多くの外国人

開発途上国への海外からの援助協力として、技術者の派遣協力がある。ケニアも同様であり、政府機関には多くの外国人技術者が携わっている。彼らの多くは、技術の啓蒙といった形での協力者であり、それとともに労働力提供型の出稼ぎ外国人らもいる。

その数も、教年前までは水資源開発省の水局だけでも、ノルウェー、英国、スウェーデン、アメリカ、カナダなどから八〇人を上まわる外国人技術者が携わっていた。しかし、最近ではナシヨナリゼイションのもとに重要なポストから外国人を退ける傾向にある。

とくに専門的技術能力を必要とする部門には、自国民だけの構成が困難なことから、いまだ多くの外国人に依存している。

私が所属していた部門は、イギリス

人、スウェーデン人、ノルウェー人、インド人、ケニア人ら七人の技術者 (Senior Engineer) から構成されており、一人のケニア人を除く他は外国からの派遣者である。派遣者らはケニア政府から家具付住宅の提供か住宅手当を支給され、かつ交通費の支給も受け携わっている。

給料は、本国政府に全額依存している者、一部または全部をケニア政府に依存している者などさまざまな派遣要請条件のもとで受け入れられている。こうした中で、派遣者はケニア人の助手 (Junior Engineer) が一人付く体制のもとで、六七件のプロジェクトを担当する。

ここでは、自分の署名において提出される文書類は全て自分の責任において立

案提出されるものであり、技術者の立場は部下に一任し、組織管理だけをしている社会とは大きな違いがある。

派遣者はほとんどデスクワークの仕事で、建設工事の支払い手続業務、請負人からのクレーム等の処理にあたり、事業執行のうえで最も重要な事務処理業務に携わっている。

こうした中で、事業の執行はレター (書状) によってなされており、請負人からのクレームに係わるもの、建設現場の出来事に関することなど全ての伝達はレターによって処理されている。この傾向は、私が携わった建設工事の発注者と請負人との関係にも表われており、深い人間的な信頼関係で保たれている部分が多いわが国社会の様子と異なっており、ここでは契約者を唯一の信頼できるものとして建設工事が進められている。とくに事業の執行を左右する事項には、その傾向が強い。

あまり人間的感情が含まれにくい意志伝達としての文書主義は、伝達に冷静さを保ち、ましてや異文化をもった人々の集団の中では、国民的感情が含まれないことなどに意義があり、適切な方法に思える。

また、ここで働く外国人らは、日本人のように周囲を意識しないようだ。その感覚はリーブ (休暇) をとる時にも現わ

れている。キリスト教を信仰する社会では、クリスマスやニューイヤーにかけて長期のリーブを取り旅行する人が多い。ここでも外国人らは長期の休暇を取り、職場から離れる人が多い。こうしたなかでは、年間に与えられた休暇は自分の権利として、自分の担当する仕事とくに影響を与えない限り、周囲の視線を意識せず休暇を取る。とかく日本なら上司から忠告を受け、かつ「怠け者」あつかいされるのが落ちであるが、こうした社会の人々は、あまり周囲の様子に気を止めないことなど国民性の違いを感じる。

与えられた権利義務の中で、ドライに割り切り、仕事と私生活の関係を明確にわきまえている生活態度は、何か国際的なものがあるかのように思える。

二 首都ナイロビの様子

首都ナイロビは、ウガンダへ抜ける鉄道の基地として約八〇年前に開けたところである。

現在八七万人の人口をもつ都市として、国際会議場となった二七階建のビルを中心に、蒼盤の目のような区画の中に高層ビルやモダンな商店やオフィスが整然と建ち並んでいる都市である。

また、ナイロビは、ヨーロッパ等から約三〇社にのぼる大型機の発着がある空

ナイロビ市内



港をもち、アフリカ大陸の表玄関といわれる中で、保養地として、避寒と観光を兼ね、多くの外国人が訪れる都市でもある。シーズンによっては、街の中心部は、黒人社会を感じさせないほど、白人社会の色が濃くなり、一層国際色豊かな都市に変わる。

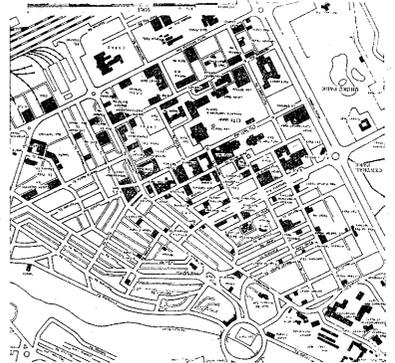
こうした状況から、ナイロビには近代的設備をもつホテルや銀行が目につく。ホテルの宿泊者はほとんど外国人でうまる。ホテルの設備も開発途上国を感じさせない。銀行も多くあり、ほとんどの銀行では、外国通貨として米ドルの交換が可能であり、横浜以上に国際的様相にある。働く従業員からも外国人との接触に慣れ、たじろいだところが見られず、国際的感覚を自然に身に付けているようだ。

また、国外からの訪問者や居住している外国人のために多くのレストランがある。日本の一般的なものと異なり、食事をエンジョイするためのレストランとして存在する。

そのためレストランも、ヨーロッパ風料理、中華料理、インド料理、日本料理にいたる各種の料理にありつける環境にある。

道路も中心部においては比較的整備されており、碁盤の目のように計画された

ナイロビ市街



道路は、車と歩行者とを調和させた道路形態にある。

また、芝生を張りめぐらし、緑地にしたオーブンスペースや街の中心部を散策して気づくことだが、清潔な国民である。

ダウンタウンや裏街を除けば、道路にはタバコの吸い殻や塵をみかけない。商店をみても、わが国のように、歩道にまで商品をはみだし陳列した様子はなく、国際都市として市民自ら公衆道徳を意識し、街の美化につとめているようにみえる。

また、外国人滞在者が住む住宅も、アパート形式、一戸建て形式など数多くある。これらのほとんどは、家具類や厨房設備など文化的な生活態様を配慮し、即日

から居住できる状態にある。また必要に応じ家具類など簡単にリースでき、外国人の滞在をスムーズにさせる環境にある。また、住宅環境も計画的に整備された地域にあり、統一されたように道路から引き下げて建てられた住宅は、内外装など改装がいきとどき、快適な居住環境を保っている。

こうした街づくりは、多くの外国人を招きやすい環境にあり、国際的都市としてナイロビが存在しているようだ。

三——おわりに

言うまでもなく、ナイロビは、先進国諸国に見られるような経済社会を基盤とした中で、急速に変貌している都市ではなく、超高層ビルや近代的都市施設等が十分備わっている都市でもない。

極端な言い方をすれば、ケニア共和国の首都と言いつつも、われわれの目には、田舎の都市としての印象が強く、やはり開発途上にある国としての印象を留めるところがある。

しかしこうした中でも、政府機関や、外資系企業等に携わり居住する外国人、また、観光や保養のために訪れる多くの外国人が、ホームタウンのように生活し

ている様子は、横浜以上に国際的な一面を持つ都市としての印象を受ける。

こうした国際的なものは、政府機関の一例を見てもわかるように、多くの面に順応性を持ち合わせており、こうしたところが外国人に対しての違和感をあまり抱かない性格として、国際的に共通したコミュニケーションの場を築いているようだ。

また、それに加えて、スワヒリ語という原語がある中でも、国際語としての英語を公用語として広く取り入れ、外国人との共通のコミュニケーションの場を築いていることなどが、多くの外国人を招き、国際的な都市としての位置を支えている要因にあるようだ。

また、ナイロビは、都市構造の上からもこうした居住性の高い都市をつくり、国際的に通用する環境が多くの外国人を引きつけ、国際的な都市としての位置を支えているようだ。

開発途上国であるケニア共和国の首都ナイロビの国際的な都市として受けた印象の一面を紹介したが、果たして国際貿易港を持つ横浜は、どの程度の国際的な都市にあるのだろうか……。

〈水道局庶務課工事安全担当主査〉